



山崎部隊長追悼

戦争に参加した将兵のなかでも白眉として挙げられるのは、何といても山崎アツ島守備隊長であろう。戦争のさなかに山崎部隊長率いるアツ島守備隊が玉砕との報道は、山崎保代が禾生村四日市場の出身で禾生高等

小学校の卒業生であっただけに、多くの人は驚愕した。そして感動した。玉砕報道の直後、昭和十八年七月二二日に禾生国民学校で忠霊感謝戦意昂揚講演会が開催されているが、その講師は玉砕直前までアツ島に勤務していた大尉である。最後は山崎部隊長を偲ぶ琵琶演奏会になっている。

人々の気持ちに強く刻みこまれたアツ島玉砕の報道をうけて、山崎部隊長にちなんで谷村警察署管内産業報国会からの山崎号が献納され、九月二〇日に禾生村上空を飛ぶことになっているので歓迎の熱意を表するために各戸は国旗を掲揚するようにしてほしい、との通達もされているほどである。翌年の「軍神山崎部隊一周年記念日」には、「軍神部隊長は本村の出身なるに鑑み、部隊長以下勇士の遺烈を偲ぶとともに愈々仇敵必滅の志を鞏固に」とうたい、式典が挙行されたりしている。

都留市史

通史編